

千刈狸の呟き

物価上昇の世の中である。

食品もステルス値上げが横行し、某板状チョコレートはてっぺんを削り、土手状で販売している。パイ状菓子は1個当たりの大きさが縮小、お得セットも11個入りから上げ底され9個入りに減り、さりげなくジャガイモ系スナックは100g→80gと表示が変更されメタボ対策がされている。牛乳やソフトドリンクも容量が減量されている。お値段据え置きインフレが、いやらしく進行している。

エネルギー不足、物価高に昭和の時代を懐古して対策してはどうだろうか？

道路わきに設置した野菜の100円無人販売が、いま飛ぶように売れている（100円を入れずに持って行く方もいて困っていると聞いた）。家庭菜園をやっているご夫婦もいる。季節の野菜は、需要と供給のバランスから格安となるケースがあるが、それでも自家製は有利。ただし、収穫したら待たなして、食材にしなくてはいけない。釣り人も増えた。釣った魚を水と一緒に冷凍すると鮮度が保たれるらしい。釣りすぎて知り合いに配っている人もいる。

ふりかえれば、宇宙ステーションから見た、首都圏や大都市の深夜のネオンは必要か？

夜は生物学的に寝ていた方が、無難な気がする。

昭和の時代のテレビ放送は午後11時頃で終わり、通称：砂の嵐という、ザーツという画面のみが出ていた。今は、TV番組が途切れることが少ない。毎日を戻すのは無理があるだろうから、週に1日はテレビ放送を午前0時で終わらせるなどはどうだろうか。

～ 昭和レトロのススメ ～

山狸

IT推進とはいうものの、それを動作させるものはエネルギーである。24時間世界は動いているが、個人としては自主的に使用する時間制限を設けてもよいのでは。

ある方が、10数年前の灯油高に対して「かつての野球の王シフトならぬ10時シフトを敷いています。午後10時を目途に、食事、入浴、明日の支度をすべて終えて、暖房を切り入眠することを、家族全員で頑張っています。」といていた。

冷蔵庫も大型化して、ふと気がつく一杯になっている。一時は東日本大震災の停電で痛い目にあって電気が無くても保存できる食材を増やしたが、今は面倒となっている。しかし、災害は忘れた頃にやってくるようだ。停電しやすかった昭和の頃の対策も、頭の片隅には必要だろう。

物価が上がると消費税が増えて財政が安定するだろうから物価高は放置、経済を回すために行動制限はかけず、医療機関には補助金を出しているのだから頑張れという姿勢の政府を当てにせず、ささやかでも自分の生活防衛を考えてはどうだろうか？

不便なことが多かった昭和の時代であったが、必要なものを必要な時に必要な分だけ手に入れたり備蓄するという考え方は、今でも十分参考になると思う。